

- 1 実施地区： 石狩地区
- 2 研修者氏名： 山田浩人（千歳市立千歳第二小学校）
- 3 研修実施日： 平成26年2月4日（火）～6日（木）
- 4 研修先： 旧文部省庁舎及び航空会館（平成25年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会）
- 5 研修目的： 新学習指導要領の実施状況及び全国学力・学習状況調査結果から教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究の取組について理解を深める
- 6 キーワード： 単元を貫く言語活動

今回、上記の研修目的により、国立教育政策研究所の指定事業研究協議会に参加してきました。参加した分科会は、国語、算数、図画工作、道徳、幼稚園・幼小連携の5つでしたが、特に、国語科における「単元を貫く言語活動」について理解を深めることが第一の目的でしたので、国語の研究発表の概要を報告します。



旧文部省庁舎

1 広島県神石高原町立油木小学校の研究

油木小学校では、国語の研究内容「『C読むこと』において、目的に応じて、読む対象となる本や文章を効果的に選んだり、読み方を工夫したりするための単元を貫く言語活動を位置付けた「単元構想及び単元の指導過程」について取り組んでいます。

(1) 全国学力・学習状況調査の結果からみえた課題と原因

「目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係づけて読むこと」に関して課題がみられたということです。原因としては、教師が文章の解釈に関する目的が不明確なまま単層的な読み取り中心の授業をしてきたこと、単元を貫く言語活動を設定しても、言語活動そのものの特徴の分析や系統性の把握が不十分であったため、ということでした。

(2) 改善に向けた取組～「単元構想見取り図」

「読むこと」の授業改善を図るために、基本的な授業スタイルを、「単元を貫く言語活動」を設定した授業構想をベースとして、「身に付けたい力」「教材」などの適切な関連を図り、「重層的な読み」の授業を位置付けた「単元構想見取り図」を作成し、実践を進めています。

この取組により、相手意識と目的意識をもち、主体的に読んだり表現しようとする姿が見られるようになったということです。また、重層的な読み方をさせることで、全体と部分を行き来しながら、課題に即した読み取りができるようになってきていることが報告されました。

単元構想見取り図 油木小スタイル 1学年 単元名 { おはなしの せかいに はいって、 げきを しよう }	
読むこと（文学的な文章）	<p>○「おむすびころりん」で登場劇を再演し、リズムよく読むことを経験した。（読むこと ア）</p> <p>○「おおきなかぼ」でペーパーワークを使ってお話の大好きなところを紹介し、登場人物の行動を想像しながら読むことを経験した。（読むこと ウ）</p>
学習活動	<p>・物語を劇にするために興味をもち、学習計画を立てる。</p> <p>・「おはなしの せかいに はいって、 げきを しよう。」</p> <p>・「ことばのお宝庫」を見て、今までの学習を振り返る。</p>
指導のポイント	<p>・数年が経った劇のVTRを見せ、音読劇との違いに気付かせる。</p> <p>・劇をするためには、会話だけではなく動きも考えることを知らせ、台本づくりの必要性を感じさせる。</p> <p>・他のファンタジー作品も紹介する。</p>
単元を貫く言語活動と	<p>VTR鑑賞</p> <p>「音読劇」と「劇」の違いは… ・地の文を言っていないよ。 ・動きながら話しているよ。 ・本にはない会話も話しているよ。</p>
教材の特徴（教材6つの眼）	<p>①文章の種別や形態…ファンタジー、日常から不思議な世界に入りの展開・結末…地上、空、地下と場面が展開する。 ②表現…おむすびころんや子どもたちの会話を行動の繰り返しが ③人物像…「おむすびころん」と「おむすびころん」と書いてあり、一人に役 ④作者…中川李枝子、児童文学作家、保育園に勤めながら「くらじ 教材は、1年生にとって初めてのである。 ⑤図像…友だちと抱きあうし、声を合わせて読む楽しさを味わ</p>
劇づくり	<p>台本ワークシートを使った1時間の活動</p> <p>①登場劇鑑賞 「おむすびころん」が相手が がいて、会話文だけで発 演してみせさせる。</p> <p>②即興の「おうい」は 子どもたちだよ。だっ て、「みんなは大きな声 で呼びました」と書い たよ。</p>
次 時	<p>1 1</p> <p>2 2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p>
学習活動	<p>・子どもたちがいる場所をもとに、地上～空～地下と全文を大きく3つに分けさせる。</p> <p>・さらに、初めの地上の場面を、くじらぐもと子どもたちの行動をもとに、「体操」「まねっこ」「ジャンプ」に分け、全文を5つの場面に分けさせる。場面ごとに台本づくりをするという見通しをもたせる。</p> <p>・くじらぐもがしたことを子どもたちがしたこと台本に書かせ、くじらぐもが子どもたちのまねをしていることに気付かせる。</p> <p>・子どもたちがくじらぐもに飛び乗るようになった様子に劇にする。</p> <p>・子どもたちが雲の上に着ひ乗る様子を劇にする。（本物）</p> <p>・空の中の様子を劇にする。</p>
指導のポイント	<p>・くじらぐもがしたことを子どもたちがしたこと台本に書かせ、くじらぐもが子どもたちのまねをしていることに気付かせる。</p> <p>・声をかけるときの声の大きさや、くじらぐもが答えたときの子どもの反応やセリフを想像させて台本に書かせる。</p> <p>・同じセリフの繰り返しについて、どのように読めばよいかの違いを考えさせる。</p> <p>・くじらぐもの上から見た景色を想像して、絵に描かせる。</p>

油木小学校「単元構想見取り図」(一部)

2 小樽市立潮見台小学校の研究

潮見台小学校では、単元を貫く言語活動について系統性を見出し、年間の見通しをもった付けたい力にふさわしい単元を選定することや、音読の奨励と並行読書などを促進する読書環境の充実などに取り組んでいます。

(1) 「『読むこと』の領域における単元を貫く言語活動の系統表」の作成等と成果

「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の類型化や指導事項のマトリックス化を図った単元を貫く言語活動の系統表を作成したことにより、らせん的な指導が一層充実してきているということです。また、この系統表を作成することにより、付けたい力にふ

「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の系統（試案）

学 年	単 元 名	教 材 名	付けたい力	指導事項				単元の指導目標	単元を貫く言語活動とその他の特徴
				言語的	読解的	表現的	その他		
1	うきぎとたぬきになつておはなしをたのしもう	ゆうだち	様子がわかるように声に出して読む力			◎	○	◎ 様子が分かるように音読しようとしたり、讀んだ理由を伝え、語のよさを紹介しようとする。	・登場人物になつてお気に入りの場面を劇化する。
	いきものずかんをつくらう	みいつけた	説明の順序や内容をとらえて読む力		◎		○	◎ 事柄の順序を考へながら内容の大意を捉えようとする。◎ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて感想をもとうとする。	・教材文の構成を参考にし、自分の選んだ魚などのようなところで見つけることができると、自分の経験を引き寄せたり、本や図鑑を眺んだりして生き物図鑑を作る。
	おんどくはつぴょうかいをしよう	くじらぐも	お気に入りの場面の様子を想像しその様子が表れるように声に出して読む力	◎			○	◎ 音読の響きの面白さや様子が分かるように音読しようとしたり讀んだ理由を伝え語のよさを紹介しようとしたりする。	・お友だちに自分がお気に入りのお話を読み聞かせ、好きなわけもまとめてお話しする。
	めざせじどう車はかせ	じどう車くらべ	事柄の順序に気をつけて内容の大意を読む力	◎			○	◎ 自動車図鑑を作るために、図鑑を読んでお気に入りの自動車について紹介する図鑑の1ページを書く。	

単元を貫く言語活動の系統表（一部）

さわしい言語活動を選定する際の着眼点が明確になることから、各学校における年間指導計画の改善を図ることができることが報告されました。

(2) 読書環境の充実に向けた取組と成果

教科書教材の関連図書を児童の身近に配置し、ブックポストなどの言語活動によって作成した作品を学校図書館に展示することにより多読や並行読書が促進されているということです。

3 単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の授業づくりの具体的なイメージ

研究課題である「単元を貫く言語活動」に関わり、教科調査官から、「読むこと」を例に、これまでの指導と比較するなどした事例が紹介されました。その一例が次の内容です。

これまでの指導

「『読むこと』小学校1・2学年「ウ(文学の解釈)」「カ(選書)」を重点に指導する単元の一例

導入	・全文を通読 ・初発の感想 ・課題を知る
展開	・教材文を、段落ごとに読み取り、筆者の考えをつかむ (または) ・教材文を、場面ごとに読み取り、人物の心情を想像する。
発展	・学習のまとめ ・楽しく発表

主体的な思考や判断を位置づける

導入	・読み聞かせ(選書モデル) ・読書・学習経験の想起 ・課題を設定する
展開	・ストーリー展開のおもしろさ、好きな場面や人物の行動を見つけて読む ・本や場面を選んだわけを考える
発展	・自分が選んだ本の好きなところを紹介する。

シリーズなどの並行読書

子ども自身の課題意識を膨らませる導入の学習

読む能力の基盤としての選書の機会と読書量の確保

この言語活動の遂行には「本を選ぶ力」「好きなどころを意識して読む力」「ストーリー全体を楽しむ力」等が必要



研究発表の様子

4 終わりに

教科調査官から、単元を貫く言語活動を位置付けた授業の実践により、確実に子どもたちが変わってきている一方で、課題としては、教員がいかにかこの授業を理解して取り組んでいくかということが指摘されました。

今後、本校においても、研究指定校の取組などを参考に研修を深め、授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

